

～ 日本看護系学会協議会連携事業 ～  
公益社団法人日本看護科学学会 平成24年度 災害看護支援事業

## 事業完了報告書

都市部に避難した  
東日本大震災被災者への  
健康支援事業の実施

所属機関： 茨城県立医療大学

代表者名： 綾部明江

## ■ 事業内容

事業の内容、手法、場所、対象者とその人数などを具体的に記載すること。

### I. 健康相談

事業名：被災者孤立防止支援事業（健康相談）

事業主体：中野区社会福祉協議会

実施日：平成24年5月～平成25年3月

原則第4金曜日(スケジュールによって変更あり)13:00～15:00

場所：サロン「来らっせ白鷺」

(都営鷺宮住宅仮設集会所 東京都中野区白鷺1-4)

相談員：下記のメンバーのうち2名が参加した。

山口 忍、綾部明江、鶴見三代子(茨城県立医療大学)

安藤実里、渡邊志保(地域NPOコーディネーター)

周知方法：社会福祉協議会広報にて周知

実施方法：

- ・来らっせに来ている方を対象にした血圧測定および健康状態の確認
- ・相談事がある対象者への個別健康相談

事後処理：

- ・全ての相談内容は「健康相談カード」に記入・保管する。
- ・社会福祉協議会メンバーとの情報共有、申し送りの実施

添付資料(1)健康相談の記録(個別の健康管理記録票)

添付資料(2)「健康相談報告書」(保健師→社会福祉協議会への連絡書)

### II. インタビュー調査「都市部に避難した東日本大震災被災者の生活の特徴」

#### 1. 事前打ち合わせ

日時：7月2日(月) 10:00～12:00

場所：茨城県立医療大学(茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2)

参加者：山口 忍、綾部明江(茨城県立医療大学)

安藤実里、渡邊志保(地域NPOコーディネーター)

審議事項：インタビュー調査スケジュール確認

インタビュー項目の検討

必要な物品等の確認

\*研究の倫理審査については、6月下旬に承認が得られた。

#### 2. インタビュー調査実施

目的：長期被災者の「生活の再構築」に必要な要素を明らかにする。

日時：① 8月1, 2, 7日 ② 12月14日

場所：①中野区高齢者会館白鷺(東京都中野区白鷺2丁目8-5)

②こらっせ(サロンそばにインタビュースペースを設定した)

対象者：サロンにて当事者スタッフ(被災者でかつ、サロン活動に従事している者)として活動しているもの7名

研究者：山口 忍、綾部明江(茨城県立医療大学)

安藤実里、渡邊志保(地域NPOコーディネーター)

内容：① 属性(性別、年齢、出身地、避難の理由、中野に来るまでの経緯)、②健康状態、③現在の生活状況および、日常生活で満足している点、困っ

ている点、④今後の生活の見通しと希望および課題、⑤来らせへの希望

### 3. 分析に関する打ち合わせ

日 時：3月1日(月) 10:00~12:00

場 所：茨城県立医療大学（茨城県稲敷郡阿見町阿見 4669-2）

参加者：山口 忍、綾部明江、鶴見三代子(茨城県立医療大学)  
安藤実里、渡邊志保(地域福祉推進センター)

審議事項：①インタビュー内容の読みあわせ ②分析の方向性について

## Ⅲ. 健康教育

### 1. アンケート調査

・茨城県立医療大学看護学科学生の見守り研究として、サロン「来らせ白鷺」参加者へ、健康状態に関するアンケートを実施した。

実施日：8月24日(金)、9月7日 10:00~15:00

場 所：サロン「来らせ白鷺」

(都営鷺宮住宅仮設集会所 東京都中野区白鷺1-4)

対象者：サロン「来らせ白鷺」参加者のうち、アンケート調査の了承を得た者20名

研究者：茨城県立医療大学看護学科4年生1名、指導教員1名

調査内容：①属性(年齢、性別)、②現在の治療状況、服薬の有無、震災前後における悪化の有無、③食事について、④運動について 等

### 2. 健康教育の実施

#### 1) 第1回健康教育

・茨城県立医療大学看護学科学生の見守り研究として、サロン「来らせ白鷺」参加者へ、健康状態に関するアンケートを実施した。その結果をもとに

実施日：9月28日(金) 10:00~15:00

場 所：サロン「来らせ白鷺」

対象者：サロン「来らせ白鷺」参加者

周知方法：社会福祉協議会広報にて周知

指導者：茨城県立医療大学看護学科4年生1名、指導教員1名

実施内容：ストレッチ体操

ストレッチの方法を A3 用紙に書き、ラミネートをして、いつでも内容を確認、実施できるようにした。

#### 2) 第2回健康教育

実施日：11月9日(金) 10:00~15:00

場 所、対象者、周知方法は第1回健康教育と同様である。

研究者：茨城県立医療大学 山口忍

実施内容：ストレス対策・睡眠について

「ストレスについて」「睡眠について」のパンフレットを基に、健康教育を実施した。

#### 3) 第3回健康教育

実施日：3月8日(金)

場 所、対象者、周知方法は第1回健康教育と同様である。

実施内容：アンケート結果をもとにしたグループワーク

「毎日の健康管理をふりかえる」

④被災者支援のための広報への記事掲載

実施時期：平成24年12月号

媒体：情報誌 Smile

執筆者：茨城県立医療大学 山口忍

内容：「健康に冬を過ごすために」

IV. 被災者支援ネットワーク連絡会への参加

1)平成24年度 第1回被災者支援ネットワーク連絡会

日時：10月4日 10:00~12:00

場所：サロン「来らっせ白鷺」

参加者：茨城県立医療大学 綾部明江

中野区職員（社会福祉協議会、地域包括支援センター）、鷺宮住宅自治会著、弁護士、ハローワーク担当者、生活協同組合職員、等

議題：①各自の活動内容の報告

②被災者における現状と課題

内容：

- ・自治会長から被災者と、以前より都営住宅にいる住民と一緒に活動するようになってきている。
- ・被災者の存在や健康状態を把握するため、各種のイベントを実施して被災者が集まる場を確保するよう努めているとの報告がみられた。
- ・健康相談ではまだ身体の不調や精神的なストレスを訴える事例を見かける。また、被災者支援だけではなく、自立支援の視点も重要だと考えている。

2) 1)平成24年度 第2回被災者支援ネットワーク連絡会

日時：3月12日 10:00~12:00

場所：サロン「来らっせ白鷺」

参加者：ヘルスプロモーション研究センター 渡邊志保

中野区職員（社会福祉協議会、地域包括支援センター）、鷺宮住宅自治会著、弁護士、ハローワーク担当者、生活協同組合職員、等

議題：①各自の活動内容の報告

②被災者における現状と課題

内容：

- ・既に被災者のうち都営鷺宮住宅から50軒の退出者があったとの報告があった。
- ・残っている住民に対し引き続き支援する方向性で一致した。
- ・健康相談については次年度も引き続き実施することとした。

V. 学会発表

日時：11月17日（土）

学会名：第16回日本健康福祉政策学会学術大会

演題：都市部で生活する東日本大震災被災者被災者への健康支援

研究者名：山口 忍\*1 綾部明江\*1 渡辺志保\*2 安藤実里\*2

鶴見三代子\*1 佐谷けいこ\*3

研究者の所属：\*1 茨城県立医療大学 \*2 社) 地域ヘルスプロモーションセンター \*3 NPO 法人シンプル高齢者健康福祉研究所理事長

## ■ 事業成果

できるだけ具体的に記載すること。

### I. 健康相談

#### 1) 実施件数

1回の血圧測定者は、参加者全員(15名程度)、健康相談者数は5名程度であった。

#### 2) 健康相談の成果

- ・病院へ受診しているが、血圧管理が必要な方の経過観察が実施できた。
- ・頭痛、不眠、ふらつき、けがなどの診察を受けなくてもよいが気になる症状について相談が実施できた。
- ・健康相談の中で、生活上のストレス等を話すカウンセリング的な役割を果たすことができた。

#### 3) 今後の予定

平成25年度も、健康相談を継続する。

### II. インタビュー調査「都市部に避難した東日本大震災被災者の生活の特徴」

#### 1) インタビュー実施による成果

- ・7人の対象者にインタビューを実施することができた。
- ・対象者からは「今まで、将来のことにきちんと向き合うことができていなかったが、インタビューを受け、今後のことについて考えようという気になった」という感想が聞かれた。

#### 2) 今後見込める成果

- ・インタビュー結果は「避難生活において、(引っ越しなどの)行動をおこしたとき」と「その行動を実施した時にどのようなことを考えたのか」について、分析する予定である。次回の検討会議は平成25年4月30日に予定している。
- ・最終的には論文にまとめ、投稿予定である。

### III. 健康教育

#### 1) ①健康教育 参加者数

月日	回	内容
9月28日	第1回	ストレッチ体操
11月9日	第2回	ストレス対策・睡眠について
3月8日	第3回	毎日の健康管理を振り返る

添付書類(3) こらっせの施設および健康教育写真 参照

#### ②情報誌 Smile \*配布数 約300枚

Smile: 中野区社会福祉協議会が月1回発行している、被災者を対象とした情報誌

## 2) 健康教育に関する成果

- これまでは被災者に対し、援助する側が遠慮をして、「ストレス・不眠について」ということを話せない雰囲気があったが、健康相談やインタビューなどで継続的に関わることにより、被災者に本当に必要とされる健康教育を実施することができた。

## IV. 被災者支援ネットワーク連絡会への参加

### 1) 参加実績

月 日	回	参加者
10月4日	第1回	茨城県立医療大学 綾部明江
3月12日	第2回	ヘルスプロモーション研究センター 渡邊志保

### 2) 連絡会参加における成果

- 現在の活動を報告する機会となった。
- 様々な機関との連携を図るきっかけにつながった。

## V. 学会発表

添付資料(4) 第16回日本健康福祉政策学会学術大会 発表資料

- 参加者からの質疑もあり、学会発表により、活動を報告することができた。